

日本看護歴史学会 会報

日本看護歴史学会
第33号
1999年12月1日

第一三回大会の成果を繋いで

山本捷子

二十世紀で括られる時間は残すところ一年余。昨日に続く今日・明日ですが、時の節目を新しい出発点としたいというのは人の常で、本大会も「世紀を越えて、看護の未来」をテーマに、八月三十、三十一日暑い大阪で開催されました。テーマを受けて三つの講演が行われましたが、そのひとつは今年度から代表幹事の任を受け継がれた高橋みや子氏の「看護の未来——大学教育の現状と課題」でした。

看護系大学の急激な増加は、目を見張るものがあります。その背景には少子高齢化する社会と高度・多様化する医療保健福祉への対応策として看護の高等教育化があるのですが、優れたケア提供者の育成のための研究教育方法の開発や育成したCNS（専門看護職）が活動する場やその経済的基盤の整備、教育現場での教員不足の現状など、さまざまな問題点が提示されました。「現在は皮作りの段階、これからは内容の充実」と説かれ、今が日本の看護界のターニングポイント最盛期だと痛感したことでした。

講演の二は、遠藤恵美子氏の「看護の未来——新しいパラダイムの転換をめざして」でした。アメリカで生まれた看護理論について、人間—環境—健康—看護の枠組みからみた多様なパラダイムが、近年ロジャースやニューマンの人間と環境の全体論へシフトしていることが紹介されました。戦後、ヘンダーソンはじめ次々と紹介されるアメリカの看護理論を理解することに汲々としている身には、心が震えるような刺激が与えられた時間でした。人間全体を丸ごと把握、クライエントにとっては看護者も環境となる存在として関わるといふ新しい見方に、畏れおののきながらも、自ら思考する力の弱さを如何に克服するかが当面の課題ではないかと思ったことでした。

講演の三は、中島紀恵子氏の「看護の未来——福祉との接点」でしたが、律令制に始まる福祉の法制史から、現在の高齢化社会の介護保険制度、これからは社会・健康・福祉の視点から看護介護の本質としてケアリングの役割の重要性を強調されました。氏の講演は社会的視野から、ケアリングを再度見つめる機会となりました。

研究発表は四編で、仏教における看とり、「病家須知」、国立公衆衛生院の歴史、沖縄県の准看護婦問題、と興味深い内容が取り上げられていました。

分科会は、見戸明子氏（錦秀会准看護学院）の話題提供で、「オーストラリアの看護の歴史と高齢者ケアプログラムについて」をめぐって、二十人ほどの参加者が和気藹々と話し合いました。

総会では、第五期目の幹事が紹介されました。第一期目の返り咲きが多い幹事会ですがマンネリを脱し、新機軸の学会運営が期待されます。

来年は八月二十三、二十四日に秋田市にて開催予定です。多くの会員の方々と研究成果が参集されることを期待しています。

第一四回大会予告!!

◆開催期日

平成一二年八月二三日（水）
八月二四日（木）

◆会場

秋田県立文化会館分館
（ジョイナス）秋田市

◆研究発表の申し込みについて

研究発表を希望する方は、
・演題名と主旨百字程度
・氏名所属会員番号

・申し込み締め切り、平成十二年三月一五日（水）当日消印有効

・送付先
日本赤十字秋田短期大学

〒010-14
秋田市上北手猿田字苗代沢

一七の三
山本捷子宛

学会発表を終えて

長谷川愛子

(浜松医科大学附属病院)

十三年も歴史ある日本看護歴史学会に初めて参加させていただきありがとうございます。また、新卒である私に発表の機会を下さったこと、大変感謝しております。

『病家須知』・『達生図説』に見る日本の近世看護とナイチンゲール看護」というテーマで発表させていただきましたが、二年ほど前この二書を初めて目にし、その内容に驚き、感動し卒業研究として取り組んできました。

私は学生時代、看護の歴史に触れることは全くと言ってよい程ありませんでした。日本の看護技術について図入りで説明された書物が存在していたことさえ知られていません。

医療の現場に半年立って、日本的看護の在り方・方法も現場に活かされてもよいのではないかと思えます。

また、看護学生にも、このような歴史に触れるチャンス을設けてもらい、また良い点が現場に活かされていくようになればよいと思います。

私は日本の歴史・看護の歴史について、勉強を始めたばかりで、

まだまだ知識も薄く、内容も未熟ですし、専攻も絞っていく必要があります。皆様に御指摘いただいたことをしっかりと受けとめ、今後学習を重ね研究を進めていきたいと思っております。

学会に参加して

日下 修一

(東大大学院)

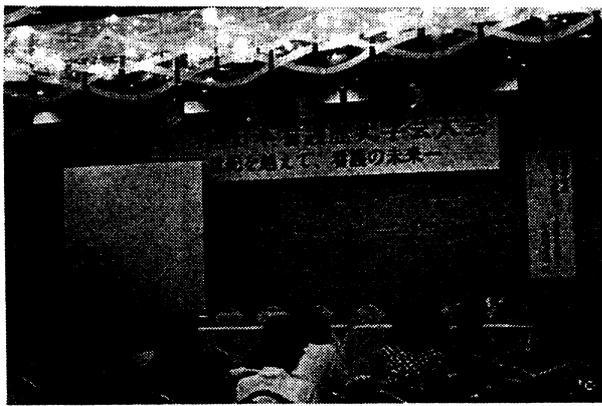
今春、学会に加入し、今回が初の学会参加でした。前から看護の歴史に興味を抱いていましたが、具体的に私の周囲には看護史の研究者が存在せず、東京大学の看護史の授業は基礎看護学担当の教授が資料を掻き集めて、苦勞して講義されていました。そうしたことから、日本の看護史研究者の話が聞けると期待して学会に参加しました。

看護の将来を見通すという今回のテーマから、これからの看護に焦点が当てられていたようですが、看護の歴史というものが、これらの看護の方向性を示唆すべきツールであるという位置づけを理解できたように思います。「温故知新」(古きを訊ねる、温める)ということはなかなか実践しがたいことであり、その意味でも、この学会の発展が期待されるべきであると

思います。

初日に目をひいたのは、自由集会のオーストラリアの看護・介護についてのレポートでした。参加者はそれほど多くありませんでしたが、発表者も含め、様々な視点から多くの質問・発言があり、楽しいひとときを過ごせました。

二日目の研究発表では、神居さんのような仏教者の発表、沖繩の准看護婦制度の発表など、滅多に聞けないもので、有意義に思いました。昼食を兼ねた懇談会の場では「歴史ある」先生方にも接することができ、面識のなかった先生方の姿を拝見でき幸いでした。改善すべき点もあったようです。



が、特に思いつくことは発表の本数が少なかつたことです。これを改善するためには、私自身が来年度何らかの研究発表を行うことが必要です。なにができるかわかりませんが、今後ともよろしくお願ひします。

アメリカ看護歴史学会見聞記

福本 恵

ひょうたんからコマ、今回のアメリカ行きはそんな感じでした。最も、根本的な課題は各自潜在的に持っていたところに条件が整ったので決断が早かったというところでしょう。

メンバーは高橋みや子さん、依田和美さんそして大西真由美さんと私の四人です。

ところで、当日、私たち四人の参加がちょっとした話題になっていました。なにしろ参加者が二百人足らずの小さい学会だったのと過去に日本のナースはライダー・島崎玲子さんなど数人の参加があったのみでしたのでよけいに目立ったようです。ちょうどGHQの占領時代のオルソン女史の日本の看護改革に果たした指導評価に関する研究報告があり、これが私たちの関心をひいたのではないかと噂されていたようです。この報告をな

さった方は担当の年配でしたが友好的でオルソン先生の話を聞くことができました。アメリカでもオルソン女史の功績が高く評価されていることを再認識しました。そして、明治中期、京都看護婦学校において近代的看護教育の先鞭をつけたリンダリチャーズを想起し、日本の看護教育の節目節目に多大の影響を与えたアメリカの看護婦諸姉に親近感と敬意を覚えました。学会運営で参考になったことがいくつかあります。ひとつは会場に歴史的な文献が展示、即売されていたこと。もうひとつは開催地にある歴史的施設等の見学です。三つ目は最終日に夕食会があったことでオークションがもたれたことです。オークションには会員から提供された燭台、初期の訪問袍や文献など多数出されました。長い一日でしたがとても愉快に過ごしました。

最後に、楽しい話題があります。この学会でポスター掲示など本会のPRをしてきました。大西さんにカラーコピーで作成してもらったものです。来年はもしかしたらアメリカのナースの参加があるかもしれませんね。

アメリカ歴史学会初参加は、今ではほんとに夢のようです。



AAHN Nursing History Research Conferences:
1999 ▶ Boston, Massachusetts, October 1-3.
2000 ▶ Villanova, Pennsylvania, September 22-24

会費納入のお願い
一九九九年年度の会費（四千元）未納の方至急納入して下さい。なお、未納額を確認されたい方は会計大平政子氏（☎467-8601名古屋瑞穂区瑞穂町川澄一 名古屋立大学看護学部）へご照会下さい。

なお、会則第六条の規定により、年会費を三年以上滞納した方は、会員の資格を失うこととなりますので、ご留意下さい。

日本看護歴史学会 1999年度予算

収入の部 (単位 円)			
項目	予算額	摘要	前年度決算額
前年度繰越金	601,752		971,733
会費	680,000	170名×4,000	192,000
寄付金その他	50,000		66,963
合計	1,331,752		1,230,696

支出の部 (単位 円)			
項目	予算額	概要	前年度決算額
事務経費	300,000		229,704
印刷費	(30,000)	会報 2回	(10,900)
通信費	(170,000)	学会誌 1回	(174,747)
文具・その他	(100,000)	アルバイト代を含む	(44,057)
幹事会開催費	200,000		87,390
出版費	360,000		294,000
会報発行費	(60,000)	年 2回	(21,000)
学会誌発行費	(300,000)	年 1回	(273,000)
会員名簿作成費	0	(1回/3年)	17,580
予備費	451,752	(委員会開催費含む)	0
合計	1,331,752		628,944

日本看護歴史学会 1998年度会計報告

収入の部 '98.7.1~'99.6.30			
項目	予算額	決算額	差引額
前年度繰越金	971,733	971,733	0
会費	800,000	192,000	608,000
		会員 28口	
		新入会員 20口	
寄付金その他	50,000	66,963	△16,963
		会誌等売上 (50,240)	
		利息 (523)	
		印 (16,200)	
合計	1,821,733	1,230,696	591,037

支出の部 '98.7.1~'99.6.30			
項目	予算額	決算額	差引額
事務経費	300,000	229,704	70,296
印刷費	(40,000)	(10,900)	
通信費	(160,000)	(174,747)	
文具、その他	(100,000)	(44,057)	
幹事会開催費	200,000	87,390	112,610
出版費	400,000	294,000	106,000
会報発行費	(100,000)	会報31号 (21,000)	
学会誌発行費	(300,000)	学会誌11号 (273,000)	
会員名簿費	100,000	17,850	82,150
分科会費	20,000	0	20,000
予備費	801,733	0	801,733
合計	1,821,733	628,944	1,192,789

次年度への繰越金
収入額1,230,696円-支出額628,944円=601,752円

(会計監査報告)
監査の結果、上記報告書は日本看護歴史学会の1998年度の収支を適正に表示していることを認めます。

平成11年8月6日 会計監査 柴野千恵子 印
平成11年8月23日 会計監査 吉内恵美子 印

学会誌第一二・一三号原稿募集！
学会誌の発行が遅れています！
まだ、届かないと思っておられる
ことと思いますが、来年度になる
見込みです。悪しからず、ご了承
ください。

なお、学会誌の充実をはかるた
めに、日頃の研究成果をご発表下
さい。未発表のもので、原稿用紙
五十枚以内に限ります。編集委員
会の判断により、校正を求めるこ
とがあります。詳しくは投稿規定
を参照して下さい。

なお、投稿された原稿は返却し
ませんのでご注意下さい。

・送付先 事務局あて

日本看護歴史学会

一三回大会の収支決算報告

今年八月大阪で開催されました
一三回大会の収支決算を下記に報
告します。

会 計 大平 政子
玄田 公子

事務局からのお知らせ

◆活動計画
—— 総会での決定事項 ——
①会報年二回②学会誌一回③大
会の開催④新会員の加入促進

第13回日本看護歴史学会大会収支決算報告書

〈収入〉		(単位円)
参加費会員	58名×3000円	174,000
非会員	8名×4000円	32,000
学生	5名×2000円	10,000
懇親会費	54名×1500円	81,000
前年度までの繰越金		108,920
住之江病院他3件より寄付		230,541
合 計		636,461

〈支出〉		
会場費		184,800
マイクその他借用費		35,700
講師謝礼・車代(2名)		200,000
アルバイト雇用(3名)		45,000
講師接待費		1,386
幹事・アルバイト・世話人弁当代		17,850
懇親会費		151,725
合 計		636,461

〈差引残高〉 636,461 - 636,461 = 0

◆⑤分科会の活発化⑥その他

◆特別会計の設定

テレフォンカード販売による収
入八五一、四六九円と五十嵐基
金(震災時の寄付)四〇六、九
四八円合計一、二五八、四一七
円(別途、テレフォンカード四
七四枚)をもって、特別会計と
して計上する。なお運用につい
ては、来年度以降の総会に提案
する。

◆本会の事業年度、会計年度は、
毎年四月一日から翌年三月末日
とする。

◆会計監事は竹中京子氏(大阪府
立看護大学)、五十嵐節氏(埼
玉医科大学)に決定しました。

◆住所変更の際は、ファックスで
も結構ですので、必ず事務局へ
ご連絡下さい。

◆新入会員の紹介は次号でします。
編集後記
十二月に入って、紅葉の盛りと
は如何にと思うこの頃、地球温暖
化を実感しています。

先日、京都医学史研究会の方が
本学を訪ねられた。来年十月に開
催される全国大会の会場に予定さ
れているようで、その下見に來ら
れた由、本会としても、看護史の
立場から何らかの形で参加したい
と考えますが如何?(ふ)

日本看護歴史学会会報第三十三号 発行責任者 山本捷子 日本赤十字秋田短期大学 編集責任者 福本 恵 京都府立医科大学 医療技術短期大学部	事 務 局 〒 602-0857 京都市上京区 清和院口寺町東入 中御霊町四一〇 京都府立医科大学 医療技術短期大学部 岡山寧子・福本 恵 岡山 TEL 〇七五-一一二二-五五四二 FAX 〇七五-一一二二-五五四二 Email: okayamy@cmt.kpu-n.ac.jp
---	--